・実験でラウンドロビンと提案システムを比較するのはなぜ？

現状、導入しやすいラウンドロビンが使われている。

本研究では安価で、「導入しやすい」応答速度を考慮したＬＢを作った。

その比較対象としてラウンドロビンを選んだ。

・S～Dで見る理由は？

ユーザ調子の悪いWebサーバに気付けるようにしている。

このロードバランサには計測だけでなく評価するシステムもある。(独自性？)

何故観光地検索システム？

検索システムにおいて応答速度は重要だから。

（当初の目的が研究室メンバーの開発したシステムを入れるつもりだったから）

応答速度でLBすると何が嬉しい？

負荷分散することで強いシステムに、

ネットワークのボトルネックも削減できる。

・何故応答速度？

→通常ロードバランサで動的割り振りを行う場合，負荷を見ることが多い

それでは、ネットワークのトラブルを解決できない外部から見れるというメリットや

応答速度は負荷の具合も見ることが出来る。

・実験システムのプログラムを用意する理由は？

ロードバランサで速度測っているならそれを見ればよくないですか？

確かにその方が早いですが、

ユーザがアクセスするのにかかる時間を見た方が結果から色々考えやすいと思った。

・なぜ実験の測定間隔は5分？もっと短い方がよくないですか？

あまり短いとキャッシュの関係で正確な速度を測れなかった。

また、24時間の平均を見て判断するので対して変わらない。

・なぜ24時間の平均速度を見ているのか？

現在の速度を見るだけでは、たまたま調子が良い。サーバに割り振ってしまう可能性がある。

24だと、現在は速度が落ちているかもしれないが、回復しやすいともいえる。

・現在速度と過去24両方見ている理由は？

本実装システムの機能で、現在速度はサーバの不具合検出に使っている。

10秒以上応答がないサーバにはつながない。

・応答速度の評価は同のように評価している？

関連研究を基に、0.1秒ならユーザは快適、0.2秒なら、ユーザは離れていくなどと言った指標が書かれており、

これを参考に、S~D評価を付けた。

何を提案した？

提案するのは応答速度を考慮したLBではない。

異種環境、古いPC等を利用した負荷分散。

ロードバランサの導入コストを抑えるために，

安価で現行システムに導入でき，

負荷分散に詳しくないユーザでも導入できる実装方法

を求める.

独自性

・応答速度を評価する工程があるため、ユーザが調子の悪いサーバに気づくことができる

・NGINXを使っているサーバなら本提案システムの再現が簡単に行える。  
・ラズベリーパイというコンパクトなサーバでの実験